



## 「なんでも相談室に期待すること」



今回、社会福祉研究所では、情報誌の巻頭言の企画に際して、平成25年4月に開設した「なんでも相談室」に着目しました。JASSO（日本学生支援機構）によると、全国の大学の64.5%で学生相談が増加したとされ、その内容の8割が「対人関係」とされています。一方、神経症・躁うつ病・統合失調症といった「精神しょうがい」やアスペルガー障害・ADHD・LDといった「発達しょうがい」も上位にあげられ、多様な相談に応じる体制の強化が求められています。この現状は、本学の相談内容でも散見され、対応が求められています。

そこで、本学学生部長の甲斐好文先生をお招きし、「なんでも相談室に期待すること」と題して、設置の背景や体制、今後についてインタビューを行いました。

### ○設置の背景

本学の学生相談室は、事務嘱託職員と教員による学生相談と、臨床心理士や精神科医による心理・社会的相談を中心に一定の実績をあげてきました。また、しょうがい学生支援室をはじめ、教育センターなど多様な課題に対応できるよう相談機能の充実も図られています。

ところが、学生相談室の来室者は減少傾向にあります。これは、多様な学内相談機能の設置に伴い、相談学生が分散しているためと思われる。そこで、分散した学生相談をどのように束ねていくか、教員への相談をどのように再構築するかが課題の一つになりました。また、心理・社会的相談は、全国的にも指摘されるように精神しょうがいや発達しょうがいを抱えた学生への支援も急務と考えます。これは、本人同意に基づく計画的・継続

的な支援を学内外と連携しながら取り組んでいく人材の確保が課題の一つになりました。

そこで、学内外の相談機関との連絡・調整や本人同意に基づく計画的・継続的支援を専門職と共に進める体制の構築を構想したわけです。全国的には「なんでも相談室」と呼ばれる総合相談体制の構築が進んでおり、大分大学のぴあROOMを先例と考えました。大分大学では、人と空間を一体的に整備した点に特長があると思います。人については、社会福祉士や精神保健福祉士といったキャンパスソーシャルワーカー（CSW）を常駐させ、アウトリーチを特長にした支援を行っています。また、ぴあROOMの設置により、大学に来て居場所がない、一人で居ても安心できる空間がないという課題に応じています。なお、CSWの配置は、熊本大学や鹿児島大学にも導入されていると聞いています。



インタビューの様子

### ○本学のなんでも相談室の特長

本学のなんでも相談室の設置に際して、学部の先生方からさまざまなご意見をいただきました。一つひとつのご意見をすべて整理して体制を整えることは困難でした。ただ、こういったご意見が本学のなんでも相談室の特長になっているのではないかと思います。

例えば、「相談室学部委員」を創設です。

これは、CSWの導入によって学内外の相談機能をいかすと共に、「相談室学部委員」を創設して学部との連携も重視した体制の構築に結びつきました。実は、導入後はじめて、CSWの計画的継続的支援を同意した学生の相談は、学生自身ではなく先生からのものでした。先生からの相談をうけ、CSWと学生本人が支援の方向性を協議し、それを「相談室学部委員」の先生を通じて学部に関わってもらう。こういった事例からも先生方の関与は大切だと痛感しています。

また、「差別と人権委員会」の関与の必要性もご指摘されています。相談の一部には、ハラスメントに関わる内容もあります。現時点では、同委員会に相談する事案に発展していないと判断していますが、こういった学内の各種委員会との接点も特長かもしれません。

さらに、(後ほど詳しく述べるように) CSWの人選については、社会福祉学部の先生にご協力いただき、熊本県社会福祉士会から推薦していただきました。推薦に際して、CSWの支援を管理・監督してもらうスーパーバイザーを位置づけていただいたことも特長でしょう。全国的にみても珍しいCSWは、専門職の中でも支援事例を蓄積しているとはいえません。そこで、本学に派遣されたCSWと、小中高等学校でスクールソーシャルワークの実績を有する社会福祉士が共に議論する体制を組んでいただいたこともよかったと思います。

### ○社会福祉士に期待する役割

CSWには、教員と学生の間、事務局と学生の間、場合によっては家族との間、医師をはじめとした専門職の間に入って学生の意向を伝えるコーディネイトを期待します。また、コーディネイトされた関係者が、学生との関係に戸惑いや新たな課題を見出していないか定期的にモニタリングすることも期待します。

CSWの方は、課題解決の主体は学生であり、教員一人ひとりだとおっしゃっています。そういった意味で、学生と教員を学内外の相談機能をいかしてサポートするマネジメントへの期待は大きいです。

### ○なんでも相談室の体制について

なんでも相談室は、主に午前中に常駐する原相談員(元高等学校の校長)、午後には曜日毎に年齢や性別に配慮し、多様な実務経験を有する社会福祉士を熊本県社会福祉士会から推薦いただきました。

スーパーバイザーとして黒田さんを配置いただいたことも、社会福祉士による社会福祉士の支援ができる点で心強くおもっています。(詳細は、表1参照のこと)

表1 なんでも相談室相談体制

キャンパスソーシャルワーカー		
	永野 明子さん (社会福祉士・精神保健福祉士・保育士)	水曜日と金曜日の午後
	野満万里子さん (社会福祉士)	月曜日と木曜日の午後
	松下 勝司さん (社会福祉士・司法書士)	火曜日の午後
	黒田 信子さん (社会福祉士・スクールソーシャルワーカー)	スーパーバイザーとしてのCSWの監督・管理・監修
相談員	原 順彦さん(相談室職員)	月曜日から土曜日(午前)
精神科医師	水谷えりかさん(医師)	水曜日
臨床心理士	山口 祐子さん	木曜日

さらに、精神科医の水谷医師や臨床心理士の山口さんにも引き続きサポートしていただいています。

ただ、二部生への相談に対応できる体制という点で不十分です。これは今後の課題です。

### ○CSWからの要望から見えてきた課題

#### 1. お一人様専用スペースの確保について

平成25年4月にはじまったなんでも相談室ですが、相談件数は延べ55件で、平成20年33件、平成21年47件、平成22年22件を上回っています。また、特定の相談員に予約を入れてくるリピーターもいます。

こういった現状からCSWからいくつか要望がでています。それは「お一人様専用スペース」という学内の居場所です。大分大学のびあROOMは、居場所として一定の利用があるとのこと。本学CSWによると、学生の相談内容から居場所を求めていることがわかったとのこと。居場所の確保は、リピーターの予約で新規の相談が受けにくい状況の対応策として重要と思います。

## 2. なんでも相談室の周知について

学生や先生方への周知について要望が出ています。なんでも相談室の設置の承認が4月になったこともあり、新生や在学学生への周知は、十分ではありませんでした。今後は、学生はもちろんですが、保護者懇談会の機会を利用したり、出席状況やいわゆる極少単位など気になる学生を抱えている先生方へのお知らせにもつなげていきたいと思っています。

## 3. 学内関係部署との連携について

なんでも相談室を利用する学生は、しょうがい学生支援室や保健室利用学生でもあるとのこと。また、大分大学の先例から大学在学時だけでなく、就職以後のことまで視野に入れておく必要があると思います。本学のCSWは、ハローワークとの連携にも精通しており、就職課との接点もいずれ出てくるでしょう。



甲斐好文学生部長

このことから、学生支援に必要と思われる、また既に学生の相談に応じている関係部署との連携が求められます。

以上のことから、学生部長として、一人ひとりの学生

の課題を、学部長をはじめ、学部学科にどう伝えるかが問題だともっています。気付いたことをすぐ言ってもらい、みんなで考えられる、相談しあえる体制を引き続き考えていきたいとおもいます。

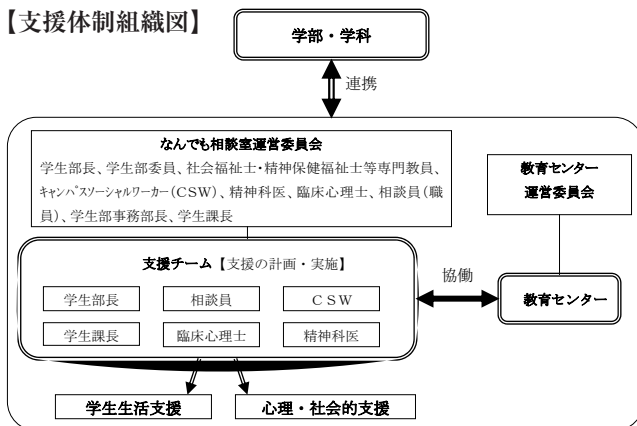
## ○最後に一言：セクションごとの相談から、なんでも相談へ

学生の相談には、日々の教室内でのことや単位修得など先生方に関わる部分もあります。また、経済的な問題や履修上の問題、進学や就職の問題など学内の関係部署に関わる問題もあります。学内にある多種多様なセクションの相談を、なんでも相談室でコーディネートし、マネジメントしていく。それが、(下図の)なんでも相談室運営委員会です。

ただ、CSW任せにすることは避けたい。一人で応じることの限界をふまえ、相談支援チームを編成する体制を整えたことをご理解いただきたい。そして、先生方や事務局の方には、相談支援チームの一員として協力をお願いしたいところです。繰り返しになりますが、学生が抱えた課題を教員と共にサポートすることが大切です。

本日はありがとうございました。

【支援体制組織図】



なんでも相談室組織図

(インタビュアー 本研究所研究員 黒木・井上)